

Relationship between indirect blood pressure and various stages of chronic kidney disease in cats.

The Journal of Veterinary Medical Science 2018 Mar

Introduction

猫において重度の高血圧は腎障害や失明など様々な合併症を引き起こす。慢性腎不全（CKD）が重度の高血圧の原因になる事は多いが、CKDの程度と高血圧のリスクを述べた報告はない。本研究はIRIS分類を用いて高血圧との関係を調べた初めての報告である。

Material and method

Prospective

- ・ 2014-2017 に酪農学園大学病院を受診した猫 101 頭（control 24・CKD 77）
- ・ 非観血的血圧測定（オシロメトリック法）
- ・ 除外（尿閉塞・甲状腺機能亢進症・心不全・腫瘍・肝疾患）
- ・ 統計（Kruskal-Wallis 検定・ロジスティック回帰分析）

Result

Number (%)	Controls	IRIS stage	
		II	III-IV
TOD risk category I	12 (50.0)	20 (34.5)	5 (26.3)
TOD risk category II	10 (41.7)	8 (13.8)	2 (10.5)
TOD risk category III	2 (8.3)	14 (24.1)	3 (15.8)
TOD risk category IV	0 (0)	16 (27.6)	9 (47.4) ^{a)}

category I (SBP < 150 mmHg)
category II (150 - 159 mmHg)
category III (160 - 179 mmHg)
category IV (SBP > 180 mmHg)

(TOD ; Target organ damage)

※CREA > 3.7 mg/dL で重度の高血圧になるリスクが高まる！

Discussion

本研究では IRIS stage II の 3 割、 III-IV においては半分もの症例が重度の高血圧であり、CKD の程度が悪化する程、重度の高血圧になる可能性がある。

(Limitation)

- ・ CKD を CREA のみで評価しており、尿比重や Echo での尿路確認はしていない
- ・ IRIS 4 の頭数が少ない（3 頭）

Comment

- ・ **IRIS stage II (CREA 1.6-2.8)** でも 3 割の症例は重度の高血圧を認めるので、**軽度の CKD でも積極的な血圧測定と治療を行うべき！**
- ・ 今後の展望 「CKD に併発する高血圧の治療と予後」